

大分県PTA連合会指定研究発表会

育つ子どもたち

平成29・30年の2年間にわたり、県PTA連合会指定研究に取り組んできた3校の研究発表が行われた。家庭・学校・地域が連携することを重視し、子どもを中心として地域の特色を生かした活動の発表となった。2年間の継続的研究の成果が披露された各学校には、県内より多くのPTA会員が参加した。

故郷に誇りを持ち貢献する人材育成

竹田市立都野中学校PTA 11月11日

竹田市立都野中学校PTA（生徒数22名、会員数28名）は「未来へつなぐ心豊かな大船つ子の育成」親子の絆を深めるPTA活動を通して、研究主題に公開発表を行った。

見せて地域の伝統技術を多くの人に広めたい」と、故郷の良さを確認し合った。

2年生は都野地域の産業について発表した。生徒たちは地域の産業の中でも農業、福祉に着眼し、畜産農場で牛のえさやりや清掃体験、老人ホームで利用者の方とのふれあい体験を行った。牛の病気予防に気を配り、施設利用者の要望に応える人々の取組を学ぶ中で、その仕事に携わる人の思いを「牛の健康を保つのは大変だが、誕生する子牛の命に感動をもらう」一家にいる

3年生は竹田の音風景について音楽劇を発表。竹田を代表する偉人、瀧廉太郎に着目し、彼の旧宅である記念館で作曲家としての原点を学んだ。生徒たちは竹田で見開きたものすべてが、瀧廉太郎がつくりだす音楽の魅力と捉え、台詞や演出を自ら立案、演じてみせた。竹林のざわめきや

大分県PTA連合会指定研究は、1949年(昭和24)に始まった県教委指定の事業を1956年(昭和31)に引き継いだ、他県にはない県PTA連の特色ある事業である。現在は大分市より1単位、県南・県北の各都市より2単位のPTAが研究指定を受け、2年間の研究成果を公開発表し、PTAの振興を図っている。



世界に1つだけのハンカチ

下駄の音に加え、廉太郎が劇中で語る「前の家ではこんな綺麗な音は聞けなかった。竹田に越してきて本当に良かった」と思っているよ」の台詞に彼が竹田の音風景を肌で感じてる様子を想像させられた。3学年とも、地域の方が先生となり体験学習に協力した。

地域が協力 一緒に育てる

午後の全体発表では、各専門部の実践活動報告が行われ

水やり当番	
月曜	りゅうや・りゅうせい
火曜	かいたい・ももな
水曜	りゅうや
木曜	りゅうや・りゅうせい
金曜	ももな・かいたい

水やりするの4名で協力しあう

また都野地域への大きな貢献にもなっていく」と発表した。中野吾一県教育庁社会教育課社会教育主事は「生徒の学びの中に、家庭・学校・地域の支えを感じた。支えてくれる大人の姿が生徒の健全育成につながるひとつのポイントとなる」と指導講評した。

我が家には4人の子供がいます。上3人は女の子。4人目にとつと男の子が産まれました。みんなとても喜びました。男の子という事もあり、末の子にとつと甘んじたい私に、お姉ちゃんたちがいつの間にか弟にきつく接することもありました。「お母さんは弟に甘いけんな!!」私よりお母さんらしく弟を叱ります。普通、姉妹の中で育つた男の子は優しいと聞きます。確かに私には優しいのですが、姉弟げんかをする弟の言葉遣いが気になります。死ぬ、何で産んだん、とか言い出す。友だちには使ってないよですが、その時は全力で叱り、しばらく説教をします。



未来をつくる 地域の力

宇佐市立四日市北小学校PTA 11月18日

午前中の公開授業では「竹田郷土学」をテーマに、学年ごとに体験発表が行われた。1年生は竹田の水と藍染めについて発表した。生徒たちは湧き水の中でも天然水「男池」と、名水を使った藍染めに着目。水の透明度調査、染色体験を行った。自然、伝統技術を守る人々の取組を学ぶ中で、地域の一員である自分たちにできることは何かを考え「自然を守ることが男池の青い水を守ることにつながる。ごみ拾いや清掃をすることで綺麗な水を維持できる」「藍の葉、染色工程の写真や布を

宇佐市四日市北小学校PTA（児童数317名、会員数255名）は「生き抜く力をはぐくもう!」家庭・学校・地域でつなぐ・つながる北小の輪」を研究主題に公開発表を行った。

もたは、竹馬の乗り方など遊びのコツを学び、保護者もともに笑い楽しんだ。2年生は生活習慣を見直す活動のひとつ「食育」に関する読み聞かせを行った。食事や排泄に関する読み聞かせの中で質問を児童に投げかけ意見を引き出した。食べることに大切さと一緒にトイレの大切さを気づかせた。



お面の細部までしっかり色づけ

3年生は伝統技能「四日市人形」の絵付けを体験。お手本を見ながら丁寧に色を重ねた。細かな目や目に苦戦しながら個性豊かな恵比寿様のお面が出来上がった。4年生は廃油を利用した、人と環境にやさしい石鹸作り。苛性ソーダ・廃油・水を入れたペットボトルを何度も振り回して中身をかくはん。使用回数

異なる廃油による完成品の出来上りの違いを楽しんだ。5年生は取り組んできた福祉についての活動をまとめた。地域の風船バレー協会の方の協力を得て、アイマスクや車椅子を使った風船バレーを疑似体験し、障がいに対して理解を深めた。「福祉について知らないことが多い。もっと勉強したい」と感想を述べた。6年生は地域在住の「語りべ」の方々と戦時中の話を聞き、平和について考えた。臨場感のある思いの詰まった話に真剣な表情を見せた。

秋吉郡治県教育庁社会教育課社会教育主事は「PTA・学校・地域の連携協働により、子どもたちは多くの体験学習ができ、社会性・生きる力を育むことにつながる。それは新学習指導要領のポイントでもある。それらは地域の方のやりがい、生きがいにつながる。成長していきなさい。」と指導講評した。

地域とつながり 郷土を知る



平成29・30年度大分県PTA連合会指定 竹田市立都野中学校PTA研究発表会 都野中学校「竹田郷土学」

午前中の公開活動は、親子で関わる取組を通し「子どもが成長する喜びを共に分かち合う」を目的に、子どもの成長に合わせたテーマのもと、地域の方を講師に行われた。1年生は地域の方と昔の遊びを通して交流を行った。親子で事前に作った遊び道具を含めコマやあやとり、めんこ等の遊び方を教わった。子ど



石鹸作り、薬品の取扱いは慎重に

3年生は伝統技能「四日市人形」の絵付けを体験。お手本を見ながら丁寧に色を重ねた。細かな目や目に苦戦しながら個性豊かな恵比寿様のお面が出来上がった。4年生は廃油を利用した、人と環境にやさしい石鹸作り。苛性ソーダ・廃油・水を入れたペットボトルを何度も振り回して中身をかくはん。使用回数

午後の全体発表では、各専門部の実践活動報告が行われ、子どもたちの豊かな心をつくる。また都野地域への大きな貢献にもなっていく」と発表した。中野吾一県教育庁社会教育課社会教育主事は「生徒の学びの中に、家庭・学校・地域の支えを感じた。支えてくれる大人の姿が生徒の健全育成につながるひとつのポイントとなる」と指導講評した。

我が家には4人の子供がいます。上3人は女の子。4人目にとつと男の子が産まれました。みんなとても喜びました。男の子という事もあり、末の子にとつと甘んじたい私に、お姉ちゃんたちがいつの間にか弟にきつく接することもありました。「お母さんは弟に甘いけんな!!」私よりお母さんらしく弟を叱ります。普通、姉妹の中で育つた男の子は優しいと聞きます。確かに私には優しいのですが、姉弟げんかをする弟の言葉遣いが気になります。死ぬ、何で産んだん、とか言い出す。友だちには使ってないよですが、その時は全力で叱り、しばらく説教をします。

我が家には4人の子供がいます。上3人は女の子。4人目にとつと男の子が産まれました。みんなとても喜びました。男の子という事もあり、末の子にとつと甘んじたい私に、お姉ちゃんたちがいつの間にか弟にきつく接することもありました。「お母さんは弟に甘いけんな!!」私よりお母さんらしく弟を叱ります。普通、姉妹の中で育つた男の子は優しいと聞きます。確かに私には優しいのですが、姉弟げんかをする弟の言葉遣いが気になります。死ぬ、何で産んだん、とか言い出す。友だちには使ってないよですが、その時は全力で叱り、しばらく説教をします。

母親代表 山本 愛

平成29・30年度

地域で

第66回日本PTA全国研究大会 米百俵の精神

第66回日本PTA全国研究大会新潟大会が8月24日、25日に開催され大分県PTA連合会より12名で参加してきました。新潟大会のスローガンは「教育は未来を拓く 新潟発 米百俵の精神!」のもと、全国から約7500人のPTA会員の皆さんが集いました。

私たちが参加した第8分科会は、領域「健康安全」で「子どもたちの笑顔、そして命を守るために」を研



南大分小学校 「南小地域ふれあいデー」



四日市北小学校 「親子で関わる取組」

究課題とした基調講演が行われました。新潟青陵大学大学院教授社会心理学者の確井真史氏により、子どもたちが犠牲となった事件事故について、心理学に基づく説明を受けました。その中で「誰しもが被害者になりえるし、逆に加害者にもなりえる。そうならな

たことば「まさか自分たちのところで」この一言でした。現在も子どもたちの命が奪われる事件事故は起こっています。そして、いつ起こってもおかしくないのです。だからこそ、皆で子どもたちを守らなくてはならないと強く感じました。

この研究大会に参加し、子どもたちの明るい未来を信じて成長するために、私たちPTA会員一人ひとりがつながり、学び合うことの大切さを感じた2日間でした。

大分県PTA連合会 副会長 小野伸介

午前中は、伝統的な遊びや郷土芸能、物作りの楽しさ等を児童が体験する「南小地域ふれあいデー」を公開。

この学校行事は、PTAと学校、地域が三位一体となって取り組む毎年行われている。PTA専門部のふれあいデー実行委員が種目決めから講師との打ち合わせ、準備等を担当し、講師を地域の方や保護者、教職員が務める。世代を超えた交流の場として、児童に「ふれあい」を通じた学びを体験させる。児童は希望する一種目を事前に選択し、6学年が混合して指導を受ける。体験できる20種目は次の通り。



初瀬井路の成り立ちから学ぶ南大分で踊られる盆踊り

ふれあいで学び 感じる心を養う

大分市立南大分小学校PTA(児童数731名、会員数588名)は「愛和団結 笑顔の花咲く南小PTA」子ども命輝くPTA活動を目標として「研究主題に公開発表を行った。」

- ①百人一首②ペーパーウェイト作り③お手玉④絵手紙⑤風船で小物を作る⑥電気を作る⑦ハワイアンリボンレイのキーホルダーを作る⑧疑似体験をしよう⑨スライムを作る⑩紙飛行機⑪認知症オレンジキッズサポーター⑫はつせおどりを楽しもう⑬料理⑭竹とんぼ⑮モザイクアート⑯けん玉⑰折紙⑱分光万華鏡作り⑲手作り天体望遠鏡⑳グラウンドゴルフ

キズナを深め活力を生む活動へ 大分市立南大分小学校PTA 11月23日

「児童と感謝」の気持ちで、児童を通じて後世へ受け継がれていくことを期待する。

苦を楽にかえる 心の改革

午後からの全体発表では、研究主題に基づく実践活動の報告が行われた。「アンケート調査の結果から、会員を苦しめる根源には活動に対する不安や負担がある。安心して楽しく取り組める活動を目指すため二本の柱を目標とした。」

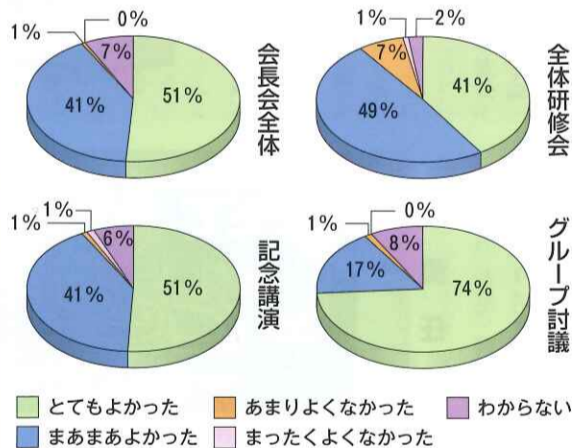
PTA役員意識改革

一つの柱では、地域との関わりが深い子ども会の存在意義を考え、なくすのではなく活かすことを軸に検討。入会率100%の現状を踏まえ子ども会をPTA組織に編入することに決めた。地区内の困りごとにはPTAが直接対応し、地区の役員や活動をPTAの一役・一係にすることで保護者の不安や負担を軽減。自治会の好意的な賛成も得た。



相手を思い浮かべて描く力作個性あふれる絵手紙が完成

平成30年度 「第11回 全単位PTA会長研修会」 事後アンケートの結果



意見・要望など

- PTA会長としての意識が高まり、役割が明確になった。もっと頑張ろうと思った。
- 研修冊子は良くまとめであり参考になる、活動の目安、とてもいい参考になる。
- 全体研修の時間は短くても良いかと思った。
- 日P元会長の記念講演ではいろんな気づきがあった。
- PTA活動が企業のCSR活動に役立つという話は、目からウロコが落ちた。
- PTA活動へ参加するため、大分県全体職場へ理解を促して欲しい。
- グループ討議で他校の情報、活動、不安等いろいろな情報交換ができ良かった。
- 他の会長の意見を聞いて自分だけが悩んでいるのではないと思ひ安心した。
- グループ討議の時間がもう少し長い方がいい。
- 保護者にPTAの重要性を伝えたいと思った。今後、頑張ろうという気持ちになった。

子育てに役立つ情報を発信



横松レイチェルです。ニュージーランド出身で、現在は、中津市内に夫と3人の娘と暮らしています。

みんなで 子育て

忘れ物! また赤字で連絡帳に書かれています。「ハア、どうしよう...」

子どもが小さいときは、親と一緒に学校の準備をしますが、大きくなるにつれ、自分で出来る方がよいです。学校からのお知らせや日課表を見ながら子どもと一緒にランドセルに詰め込みますが、子どもを見ると半分寝た顔ではば親ませ。

そこで、我が家では壁にポスターを貼る事にしました。朝のルーティン、学校に持っていく物、よく忘れる物、それらの写真やイラストを紙に貼ってポスターを作ります。子どもの面白いポーズの写真なんかも

「ママ、おはよう」 私もおはようを返します。「おはよう、ポスターを見ようね」

こうして「忘れ物」の赤字はだんだんと減っていきました。ただ「忘れ物」は完全にはなくなりませんね。

朝、子どもが起きてきて、「ママ、おはよう」

「ママ、おはよう」

「ママ、おはよう」

「ママ、おはよう」

「ママ、おはよう」

「ママ、おはよう」

「ママ、おはよう」

「ママ、おはよう」

「ママ、おはよう」

「ママ、おはよう」

「ママ、おはよう」

第63回日本PTA九州ブロック研究大会 鹿児島大会

「明治維新150年 語いもんそ鹿児島で」みんな成長していくPTA活動」を大会スローガンに、第63回日本PTA九州ブロック研究大会鹿児島大会が10月27・28日に開催された。

九州各県より約7300名(大分県からは約380名)が参加し、1日目は8の会場に分かれて分科会が行われた。

第4分科会

地域ぐるみ健全育成・支援・体験活動(一体感)

大分県立 野津原中学校PTA

「子どもの成長と共に学び楽しむPTA活動」家庭・学校・地域との一体感をもとめて」をテーマに波多野徹P会長が提言発表。「生徒数は73名。会員の保護者・教職員全員が各専門部に属し、父親

部には父親全員が所属。協働して活動に取り組む。保護者が参加できるよう工夫した学校行事のひとつに地域の方を先生として親子一緒に指導を受ける「学びの部屋」がある。この取組は各家庭で親子共通の話題になると好評。また地域の行事にも積極的に参加を重ねる。活動を通して、子どもたちの自尊心や郷土愛、地域の活性化を実感している。しかし生徒減少による予算の縮小や過疎化による自治会の職務見直し等により、広報紙の地区内全戸配布を今年度から断念。他の活動も継続できるか不安を抱える。野津原中だからこその活動がある。検討を重ねていく」と報告。

討議では、生徒流出に対する質問に「人が集まることで賑わいを呼ぶ。仕事や行事等で一時的に変化する人口とい

う意味の関係人口で考えてみると解決策が見えてくるのでは」と等意見が交わされた。助言者の中野吾一県教育庁社会教育課社会教育主事は、「役に立っているという思いが大切。PTA活動にも意味や価値を付けることで、子どもが輝くだけでなく、地域の活性化にもつながっていくのではないかと」と講評。



会場の参加者から野津原中PTAへ質問

おめでとう

「ございませう」

文部科学大臣表彰

PTA活動振興功労者表彰

富永 大輔

優良PTA文部科学大臣表彰

由布市立由布川小学校PTA

日本PTA会長表彰

〈団体〉

大分県立大分西中学校PTA

九重町立東飯田小学校育宝会

〈個人〉

分藤 貴弘(大分市)

伊藤みどり(杵築市)

島田 智樹(県庁連前事務局長)

日創立70周年特別表彰

〈個人〉

本田 浩平(豊後高田市)

後藤 智(別府市)

後藤慶太郎(大分市)

片山 翼(大分市)

工藤 真二(大分市)

須川 洋志(大分市)

山村 宗久(大分市)

坂本 晃彦(佐伯市)

瀬口 尚之(豊後高田市)

水谷 浩一(別府市)

末廣 弘江(杵築市)

藤原 美保(日出町)

中塚 高江(由布市)

大村 徹子(日田市)



第40回全国小・中学校PTA
広報紙コンクール表彰

〈日本PTA全国協議会
会長賞〉

佐伯市立鶴谷中学校育友会

〈佳作〉

日田市立大山中学校育友会

佐伯市立鶴岡小学校PTA

「紙・飛行」

「広報つるおか」

九州ブロックPTA
協議会会長表彰

〈個人〉

分藤 貴弘(大分市)

伊藤みどり(杵築市)

本田 浩平(豊後高田市)

後藤 智(別府市)

坂本 晃彦(佐伯市)

平川 修(日田市)

松山 和也(玖珠郡)

甲斐みどり(津久見市)

伊藤みどり(杵築市)

幸 順一(県庁連前事務局長)

「保護者心得六箇条」
の活用を

- 保護者心得六箇条
- 一、大人が示そうあひさつの手本
 - 二、子どもと遊び ぶれあひ 伝える愛情
 - 三、学校とともに深める 信頼の絆
 - 四、地域と見守り はくむ心育
 - 五、みんなであそび できる事を できる時に
 - 六、PTA活動を通して 楽しもう 子育て

大分県PTA連合会補償制度

平成31年度の学生・子ども総合保険は、補償内容を充実、パワーアップして平成31年2月1日より募集開始します。

申込期間:2019年2月1日~2019年3月31日
補償期間:2019年4月1日~2020年4月1日

保険にかかるお問い合わせ

はくく美保険サービス株式会社
大分県大分市大字下郡 496-38 大分県教育会館2F

0120-56-8993
(受付時間:月~金 9:00~17:00)

MS大分中央株式会社
097-538-8880

三井住友海上の安心
GK

子どもで ひとつこと

責任

「這えば立て 立てば歩めの親心」

子どもの成長を待ちかねる親心を言い表す「ことわざ」。可能性を信じて止まない命への応援歌かもしれない。第63回九州ブロック研究大会鹿児島大会の決議(案)の冒頭に、「子どもを育てる責任は家庭にあることを自覚し(中略)家庭教育の一層の充実」に努めます」とある。

「生きる力」をはぐくむ主要な場をかけたがえない家庭に置き、家庭でしか教育できない生活習慣の体得に力を注ぐと云うことだろうか。

次の黄金色一色の時期にはヨチヨチ歩きの子どもは、親の手の内から離れてしまう。世間が広がった子どもには次の「生きる力」、「しつけ」と向き合う、「学び」の世界に投げ出される展開となる。物の見方、考え方が異なる家庭の出番だ。「責任」という二文字だが、強く、重い。

西日本豪雨災害募金について

ご協力ありがとうございました。

募金送付額 **3,421,239 円**

中国ブロックに70% 四国ブロック(愛媛県)に30%分配

中国ブロックPTA協議会へ 2,394,867 円
愛媛県PTA連合会へ 1,026,372 円

編集後記

今号は333号。揃目って有難い気がするのは私だけ。余談ですが、昭和33年3月3日に生まれた人は、平成31年3月3日で33歳だぞう。ここまですれば仰天です。(O)

▼娘が落とし物をした。記憶を頼りに探して1週間。交番からの連絡で探し物は娘の元へ。この件でお世話になった方々の対応が嬉しかった。初冬、温かさが身に染みした。(T)

▼大分県民歴10年。もう日常生活には困らないが市外の地理には不案内。指定研究発表のおかげで訪れた地域が増えた。関わりと愛着がわく。その愛着を積み重ねたい。(I)

▼指定研究発表表に選出されるのは、100年に1度。この奇跡的な巡り合わせに、私もPTA会員として参加した。緊張感と感慨深い気持ちで交錯した11月だった。(K)

事故にあわれた時のご連絡先

24時間365日事故受付サービス
「三井住友海上事故受付センター」

0120-258-189